

託されたいのちのバトン

広島県 学校法人盈進学園盈進中学校 3年
山本 花奈（やまもと かな）

「私たちのこと、そしてこの歴史を伝えてほしいんや。」この7月に90歳になった中尾伸治さんが私にそうおっしゃった。

中尾さんのお顔も手も病気の後遺症で変形している。でも私は、彼のすべてが大好きだ。

中尾さんは岡山県の国立（ハンセン病）療養所・長島愛生園入所者自治会の会長さんだ。私は中尾さんから、ハンセン病にまつわるいわれのない差別の歴史と、その厳しい現実を生き抜いた人々の人生を未来に伝えていくバトンを託された。そして、そのバトンは今、私の心にずっしりと重くある。

ハンセン病はかつて「らい」と呼ばれ、蔑まれた。慢性の感染症で、手足や顔に障がいが見えることなどから、忌み嫌われてきた歴史がある。現在の日本では克服され、かつてこの病だった人は元患者や回復者と呼ばれる。

国は1907年、ハンセン病患者を国辱として「らい予防法」を制定（1996年廃止）。地域からあぶり出し、愛生園などの人里離れた場所に強制的に隔離した。こうして国は差別を作出し、作られた差別におびえた市民もまた、患者の排除に荷担した。県単位で患者の収容を競う「無らい県運動」も全国で展開され、強制収容は勢いを増した。2001年、終生絶対隔離法「らい予防法」は、憲法違反と断罪され、国は過ちを認め謝罪し、補償法もできた。

愛生園には、家族と別れた患者専用棧橋、持ち物も体も消毒された収容所、逃走したり職員に逆らったりした入所者が閉じ込められた監禁室の跡などが今も残る。子孫を残すことは禁じられ、男性には断種を、女性には堕胎が強制された。私は、愛生園を歩きながら、悲しい歴史を胸に刻んでいる。

納骨堂もある。療養所は病院と同じ。なのに…。それが、原則として、死んでも家族の元や古里に帰られない終生絶対隔離政策の現実を証明する。「もういいかい骨になってもまあだだよ」と、ある入所者が詠んだ。国策を告発する怒りが込められていると私は思う。

現在、愛生園の入所者は80人。園内の納骨堂には約3800柱がおさめられる

が、その人たちも、ここに眠るのかと思うと涙がこぼれる。でも、だからこそ今、入所者に会ってお話ができる時間を大切にしていこうと私は思う。

私には忘れられない中尾さんのお話がある。中尾さんは14歳で愛生園に収容された。病気が治ると、農作業の繁忙期には、二人兄弟の兄を手伝いに郷里へ一時帰省をした。兄は病気が治ったことをよろこび、中尾さんを歓迎した。だがある日、兄が中尾さんに告げた。「もう帰ってきてくれるな」と。兄には結婚が控えていた。兄に守るべき家族ができ、中尾さんの存在を隠さなければならなかったのだ。中尾さんの心中を想像すると、辛かっただろうにと、私はたまらなく悲しくなった。

しかし、中尾さんはこう続けた。「それを言わなければならなかった兄は辛かっただろうなあ。私の存在をずっと隠し通す家族との生活は苦しかっただろうなあ」と。私は、家族を引き裂く差別の現実を突きつけられたと同時に、厳しい差別を生き抜いてきた中尾伸治さんという一人の人間の、自分から相手を思いやるその姿に、人間のすばらしさと、人としての本当のやさしさを学んだ。そして、私も中尾さんのように、無条件のやさしさと思いやりのある人になりたいと心から思った。

中尾さんは今も、自治会長として、愛生園を世界遺産登録するために仲間たちと精力的に活動している。愛生園をこれからもずっと、人権の大切さを学ぶ場所にしたいという中尾さんの熱い思いがそこにある。

私は先日、仲間と愛生園へ行き、中尾さんの90歳の誕生日会を開いた。「生きていてよかったなあ」と言って、ケーキをほおぼる中尾さんの笑顔がとてもすてきだった。そのときに、中尾さんがこんな話をしてくださった。

「つい最近、旧優生保護法は憲法違反という判決が出たね。障がいのある人が断種や堕胎を強制され、子どもが出来ないようにされ、それが不当だと訴えた裁判やったな。旧優生保護法は、ハンセン病者にも適用されたから、私も断種されたんや。せやから、私たちにも子どもがいない。せやから、私たちの存在とその歴史を語り継ぐ人がいないんやね。私は、それがいちばんさびしいんや。せやから、頼むわね。私たちのこと、そしてこの歴史を伝えてほしいんや。」これが冒頭の場面。中尾さんの顔は少し陰しかったが、その後、ぱっと笑顔になってこう続けた。「90歳の誕生日は『卒寿』ともいうやろ。せやからな、これまでの人生を一旦、卒業して、また一から人生始めるつもりで生きるんや。そしたら人生、また楽しいやろ！」

中尾さんの手を握った。温もりがゆっくり、ずっしりと伝わってきた。そして私は誓った。

「私が中尾さんのいのちを伝えます。私がハンセン病問題を未来に生かします。」

私がいじめも差別もない、そして、病気の人も障がいのある人も一緒に暮らす社会を作ります。」